

# Faculty Development

## INVITATION

山梨大学教育学部

第40号

March 22, 2023

### 2022年度のFD事業

山梨大学教育学部では、人間の“生”に寄り添い、支える教育の担い手を育成するために、さまざまなFD活動を行っています。FD (Faculty Development) とは、学生のみなさまには聞き慣れない言葉だと思えますが、大学の教育方法や研究環境などを改善するための組織的な取り組みのことを指しています。

2022年度は、赴任直後の初任者研修（4月28日）、附属学校園での初任者研修（7月7日：附属中学校、7月15日：附属小学校）、FD研修会（9月7日、10月19日、11月2日、1月25日）、教育学部FDフォーラムおよび学生代表と学部長との懇談会（12月23日）などが行われました。

教職員のみなさまには、改めてこの一年間の取り組みを振り返っていただき、今後のFD事業の在り方につい



てお考えいただければありがたく存じます。また、このFD Invitationは、学生や院生の代表と学部長との懇談会の内容などを含んでいますので、学生・院生のみなさまも是非お読みいただければと願っております。

FD委員会委員長 齋藤 知也



# 2022年度教育学部FDフォーラム報告

12月22日（木）にJ号館A会議室にて、令和4年度教育学部FDフォーラム及び学生代表と学部長との懇談会が共同開催されました。学生代表として、各コースや特別教育プログラム、特別専攻科、教育実践創成専攻（教職大学院）の方々にご参加いただきました。教職員では、学部長、学系長、副学系長、関係各種委員会・部門の委員や代表者、支援課長、教務グループの方々にご出席いただきました。本会の目的は、学生代表と学部長をはじめとする関係教職員が一堂に会して、教育学部・教職大学院の課題と今後について考えることです。まず、「教員養成の現状と今後の在り方」をテーマとしたFDフォーラムでは、古家学部長より、『説明資料』に基づき教育学部の現状と課題について次のような説明がありました。

- 目標**：授業力、生徒理解など様々な面で質の高い教員の育成を目指している。また、学生（学部生、院生、専攻科生）、職員、教員、この学部に関わる全ての人々が居心地よく過ごせる状況にし、最終的には、学生に教職に必要な教養や知識や人間性を養成することを目指している。
- 現状**：学生と教員の比率が2対1で、ほぼマンツーマンという手厚い教育ができています。また、全校種・全教科の免許（フルスペック）を出している。
- 特徴**：少人数グループ学習が可能であるという特徴がある。また、教育ボランティアや地域学習アシストなどが充実しており、学生が教育実習以外

に現場体験をする機会がある。さらに、山梨県教育委員会との強い連携があるという特徴がある。

- 最近の話題**：今年度の教採受験者は130人中74名と少なかった。教員採用率向上のために、教職支援室の充実、相談体制の充実を図っている。その成果としては、山梨県の教採2次試験の合格率が80%を超えたことが挙げられる。教職大学院における実習の充実としての新しい取り組みは、客員教授の指導参加が今年から始まったことである。
- 今後**：ミッションである教員養成に取り組んでいくとともに、学生の教育に努めていく。

続いて、意見交換が行われました。領域別に学生から質問や意見を募り、学部長や関係教員が返答しました。授業、研究支援、教育学部・教職大学院を『豊かな学びの場』とするためのアイディア、就職支援等について多くの意見がありました。いくつかを紹介すると、模擬授業の機会を増やしてほしい、研究設備を改善してほしい、山梨県以外の教採についてもしつかり対策してほしいなどの意見・要望があり、話し合いました。最後に、このような機会を与えてもらったことに感謝していると学生代表から感想をいただきました。学生代表のみなさんから多くの貴重なご意見をいただき、教育学部・教職大学院の教育研究環境をより良くするための活発な議論をすることができました。ご参加いただいた学生、教職員の方々に感謝いたします。

FD委員会副委員長 森長 久豊

## FD研修会

### 第1回 FD研修会

#### 「教職大学院をめぐる」

－2019～2021年度までに見えてきたこと－

#### 教育学域FD研修会 教職大学院をめぐる －2019～2021年度までに見えてきたこと－

2022年9月7日（水）14：00～14：30

早川 健

神山 久美

2022年9月7日に第1回のFD研修会が開催されました。この研修は、生活社会教育講座家政教育系の神山久美先生と教育実践創成講座の早川健先生を講師とし、コーディネーターである早川先生からのご質問に、2019～2021年度まで教職大学院に籍を置かれた神山先生がご自身の経験を踏まえ、教職大学院の教育活動を紹介されながら3年間を振り返る内容で進められました。具体的には、教職大学院の教育研究体制・カリキュラム・授業・実習の概要の説明、担当した委員会等の分掌、担当院生の実習指導の実際、課題研究や研究報告書の作成指導、自己の専門分野の研究と多岐に渡りました。そして、学生の教員養成や現職教員の研修を受け持つ教員養成学部の教員は、教育学部・教職大学院両方とも担当する意義があるということや、教職大学院の主担当の経験は、教員の授業改善、学生指導に活かせるだけでなく、教員組織としての連携強化・教育改善につながるということが語られました。

## 第2回 FD研修会

### 「教職に向けての学びをサポートする ―教職キャリア・ポートフォリオ・システム―」

新野 貴則

教職キャリア・ポートフォリオ・システム（通称：キャリアポ）の運用が開始され約3年経過したことを機に、あらためてキャリアポへのご理解とご協力をいただきたく、機能や成果等について説明させていただきました。

教育学域では様々な教職支援事業に取り組んできました。そのなかで、①多様なデータを収集・管理すること、②様々な事業に学生がスムーズにアクセスすることや、学習の見通しを持てるようにすることが課題として浮かび上がりました。これらの課題を解決するために、①についてはDBシステムとして、②についてはポートフォリオシステムとして立ち上げられたのがキャリアポです。

これらの機能を持つキャリアポは、運用を通して教

職支援事業の工夫改善に資することや、教員採用試験のための学習の意欲と効率を高めることが確認されました。引き続き、学生の教職に向けての学びをサポートするキャリアポへのご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 第3回 FD研修会

### 「今後の教育学部における情報教育とICTの活用について ―高校との接続を視野に入れて―」

三井 一希

今回のFD研修では、演題を「今後の教育学部における情報教育とICTの活用について」として、情報教育や授業におけるICTの活用について取り上げました。



まずは、GIGAスクール構想がスタートして2年目が過ぎた学校現場では何が起きているのか、これから何が求められるのかを取り上げました。

続いて、今年度から高等学校で必修化された情報Ⅰではどんなことを学ぶのかを具体例をあげながら解説しました。プログラミングやネットワークのことばかりではなく、問題解決や情報デザインなどについても学ぶのが情報Ⅰであることをお伝えできたのではないかと思います。最後に、今後の教員養成課程で求められる内容を文部科学省からの通知をもとに確認しました。本学教育学部での情報教育やICTを活用した教育がより充実したものになるよう、お役に立てれば幸いです。

## 第4回 FD研修会

### 「山梨県における教科担任制の現状と課題」

中込 司

コロナ禍で学校生活が制限される中、本年度から教科担任制の導入が進められています。文部科学省は、中学校への円滑な接続、授業の質の向上、教師の負担軽減に資することをねらいとして小学校高学年に教科担任制を導入しています。

はじめに教科担任制の導入状況、教員配置の事例、導入による効果と課題をお伝えしました。

次に、導入効果を高めるための山梨県の取り組みについてお伝えしました。教員の専門性の向上については、研究指定校での成果を全県に広げる事業の展開と、連携している本学が小中の両免保有を進めていることとお話ししました。



また、学校の規模等に応じた配置については、非常勤職員配置による導入校を増やすとともに、管理職のマネジメント力向上による校内体制の構築を推進していることをお伝えしました。

本研修会が先生方のご指導ご支援の際に少しでも参考になれば幸いです。

# 附属学校園での研修報告

## 言語教育講座 小島 明子

2022年4月に本学に着任いたしまして、7月7日、新任者研修のため附属中学校にお世話になりました。校長・志村先生、副校長・萩原先生には、附属中学校がもつ使命・特性などについて長時間にわたり丁寧に説明いただき、本当にありがとうございました。

この日は、私の専門に関わる国語の授業（2年生・3年生を1時間ずつ）を参観しました。以前、私は鳴門教育大学に勤務したことがあり、そちらの附属中学校にはしばしば参っていましたが、それから何年も経過していることもあり、新鮮な気持ちで本学の附属中学校の授業に臨みました。今回は、特に研究授業として予定されたものではない普通の授

業でしたが、お二人のお若い先生が、教科書以外に生徒の関心を高めることができる補助教材を準備・活用し、生徒に的確な発問をしつつ授業の流れを作り、かつ生徒の意見を汲み上げた上でそれをうまく板書の中に納めていくという展開に感心しきりでした。国語科教育で「板書の神様」とも言われる先達の小山清先生を想起もしたところです。

本学で私は日本文学（古典文学）を担当する教科専門の教員という立場であり、授業実践については、附属校の先生方に教えていただくことばかりです。ただ、教科教育と教科専門は車の両輪のように機能してゆくのが望ましいと考えます。今後、よりよい国語科教育をめざして、附属校の先生方との連携を従前以上に深めてゆくことができればと願っています。

## 附属教育実践総合センター 三井 一希

2022年7月7日に附属中学校に伺いました。教育工学を専門とする私は、学習の基盤となる資質・能力の一つである情報活用能力をどのように育成しているかに興味があり、特定の教科ではなく、できるだけ多くの授業を参観させてもらいました。非常に落ち着いた学習空間のなかで生徒が意欲的に学習に取り組む姿を多く目にすることができました。また、1人1台端末を活用しながら、課題の解決に必要な情報を収集したり、整理分析したりする様子をたくさん参観することができました。附属中学校の先生方は、教科等のプロフェッショナルとしてのプライドをもち、じつに魅力的な授業を展開されていました。

附属中だから・・・、一般校では無理・・・、そんな声をたまに聞きます。たしかに、附属中と一般校とでは事情が異なるかもしれませんが、このような授業が展開されていることは事実であり、学校を卒業してしまえば、一般校の生徒も同じ土俵で競争をしていくこととなります。そんなときに、「私は附属中出身ではないから・・・」といった言い訳はできません。どの学校でも教師は生徒の可能性を引き出す教育を実施していく必要があり、附属中だからできるのではなく、ビジョンをもって生徒の可能性を引き出そうとするから生徒もできるようになる、と考えることが大切なのだと思います。そんなことを学生にも感じ取ってほしいな、と考えた七夕の日の研修でした。

## 生活社会教育講座 今井 千裕

初任者研修として附属小学校の5年2組に伺い、算数、道徳、家庭科、外国語、国語の授業を参観し、給食と掃除を一緒に行いました。各授業では、児童の自ら考え積極的に発言する姿勢と、児童の伝える力・説明する力を上手に伸ばす先生方のご指導が素晴らしかったです。特に道徳や国語では、他者の意見に耳を傾け、テーマに対して真摯に向き合う児童の姿勢が見て取れました。また各教科におけるICTを活用した授業を拝見し、現代の学び方の多様化を直に感じるとともに、私も教員を志す学生と共に、効果的で実りある教育を行うための指導法を工夫していくべきとの考えを強くしました。家庭科の授業は、夏休みの宿題の小物づくりのデザインや、家庭でできる仕事などを考えるものでした。家庭科では、周囲の人との生活をより豊かなものへと向かわせる意欲や実践する力を育てることが大切です。児童と

の対話では「誰かのために」という考え方が多く聞かれ、児童の他者を思いやる心が伝わってきました。給食は、私は懐かしい気持ちで味わい楽しんだのですが、やはり好き嫌いをする子も多く見受けられました。給食は大変貴重な生きた教材でもあります。学校での食教育の充実を図るにはどうすれば良いのか、私なりの立場で模索していきたいと感じたひと時でした。多くの気づきを得ることができた研修でした。受け入れてくださった研修先の附属小学校の方々にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

## 編集 後記

大学は教育研究機関であり、教養から専門まで多岐にわたって学べる場所です。政府が異次元の少子化対策と銘打つほど、人口減少に歯止めがかからず、大学も生き残りをかけて、様々な取り組みをしていかなければなりません。我々はFDに真剣に取り組んでいます。